

さて、最高裁を変えるには ——任命制度と国民審査

日時 2025年11月23日(日) 午後1時～5時

場所 連合会館(東京・御茶ノ水) 201会議室
および オンライン(ZOOM)

参加費 連合会館・1000円

(学生・院生・修習生500円)

オンライン(ZOOM)参加・無料

今回で第55回目を迎える司法制度研究集会(司研集会)ですが、近時は、司法とりわけ最高裁の「病理」について分析・討議をしてきました。今年も、「石田和外最高裁長官が定礎した『日本的司法』」のテーマで、西川伸一明治大学教授に「人権よりも秩序重視」の司法の歴史的経緯と実態についてご講演をいただきます。

昨年はこうした「病理」に対する「処方箋」として、最高裁裁判官の「任命手続き・公聴会制度」と「国民審査の改正」の2つに関して「提言」を発表しました。今回の司研集会では、いよいよこの2つについて具体化をします。

◆基調講演 西川伸一氏

石田和外最高裁長官が 定礎した「日本的司法」

朝ドラ「虎に翼」の桂場等一郎最高裁長官のモデルとされるのが、石田和外最高裁長官である。戦後の裁判所は「石田以前」と「石田以後」に区分できるとの指摘さえある。言い換えれば、今日まで続く人権よりも秩序を重視する「日本的司法」を定礎した最高裁長官こそ、石田和外にほかならない。本報告では、そのために発揮された石田の傲慢なまでの「リーダーシップ」を明らかにする。



●1961年新潟県生まれ。2005年明治大学教授。2011年に「裁判官幹部人事の研究」で博士(政治学)を取得。2025年6月『最高裁長官石田和外 日本の司法を定礎した天皇主義者』(岩波書店)を上梓。

●改革提言① 新屋達之氏

〈最高裁任命制度と公聴会制度〉



最高裁判所の長官・裁判官は内閣(政府)により指名・任命される。しかし、その人選は内密で、司法官僚や人権への関心が薄い者が選ばれる傾向が強い。最高裁改革の第一歩として、このような人選過程を可視化するための方策を考えてゆくこととしたい。

●元福岡大学教授(刑事法)/日民協司法制度委員長

●改革提言② 西川伸一氏

〈国民審査制度の改革〉

国民審査制度を実効性のあるものとし、最高裁裁判官と市民との緊張関係を醸成できる制度のあり方を検討したい。具体的には、1970年代の社会党の国民審査法改正案を参考に、投票方法を「○」「×」「無印」の3択にすることや、投票用紙の裁判官の記載順が結果に影響しない方法などを提案する。

参加申込み方法

◆メールに、氏名・連絡先・参加方法(zoomまたは連合会館)を明記のうえ、info@jdla.jp(日民協本部事務局)までお送りください。

※zoom参加の方には、集会前日に参加用URLとレジュメ等をお送りします。

◆右記のQRコードからもお申し込みができます。



〈集会事務局〉日本民主法律家協会

TEL 03-5367-5430 FAX 03-5367-5431

Mail info@jdla.jp HP <http://www.jdla.jp/>

主催：日本民主法律家協会

共催：自由法曹団

青年法律家協会弁護士学者合同部会

社会文化法律センター

協賛：全司法労働組合

オンライン参加は無料ですが、集会運営のためのカンパは歓迎いたします。

お願い

ゆうちょ銀行 00120-3-53802

三井住友銀行 京橋支店(普)4131818

*口座名義はいずれも「日本民主法律家協会」